

関西国際空港の現況

平成 18 年 5 月 22 日
関西国際空港株式会社



KANSAI INTERNATIONAL AIRPORT Co.,Ltd.

1. 平成17年度決算の概要と18年度通期見通し

○17年度決算概要

(単位:億円)

営業収益	1,046
航空系	466
非航空系	579
営業費用	818
営業損益	227
営業外収益	101
政府補給金	90
営業外費用	236
支払利息	229
経常損益	92
当期純損益	▲177

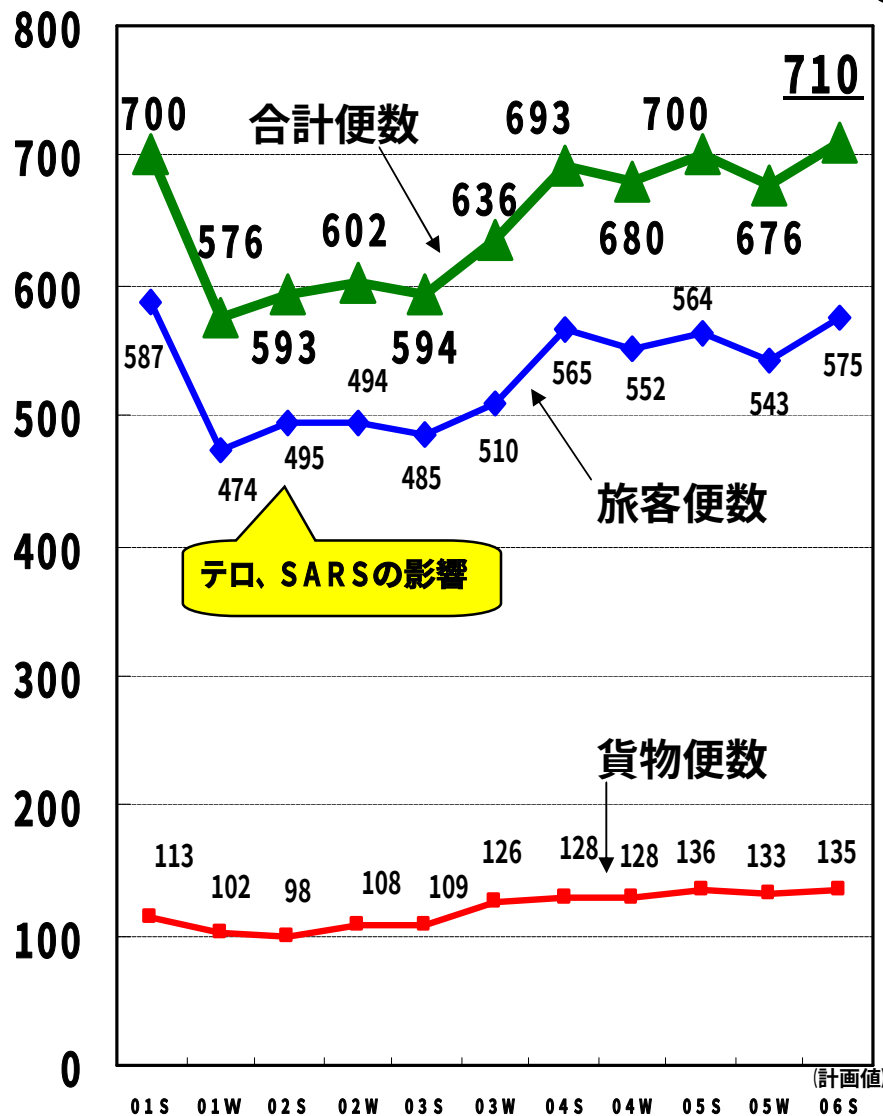
○18年度通期見通し

(単位:億円)

営業収益	1,093
経常損益	113
当期純損益	112

2. 関西国際空港の最近の動き ～国際線の動き～

(便/週) 国際線就航定期便数(ピーク時) 推移



過去最高便数！71都市(31カ国)に就航

○ 2005年度の概況

(便数: 2005年冬期スケジュール)

ダラス線・ルクソール線・海口線の再開や貨物便の増便など明るい兆しがあったが、一方で、反日デモの影響や日中航空交渉が合意に至らなかったことによる中国便の減便、バリ島テロ、津波、原油高による路線見直し等の影響による減便があり、週676便(当初計画週683便)となった。

(旅客数)

日本人旅客数は伸び悩んだが、外国人旅客数の伸びに支えられ、トータルとしては、昨年並みの旅客数を確保。中部空港の大きな影響はなし。

(貨物量)

中部空港の影響は、全国の前年比と関空の前年比との差、約3%程度と推定。(事前の想定内)

○ 2006年度の見通し

トルコ航空の2年半ぶりの再開、チャイナエアラインの32年ぶりの大阪線再開、ユナイテッド航空シカゴ線の復便、大韓航空やカタール航空、フィンランド航空、エバー航空の増便など、様々な増便が予定。

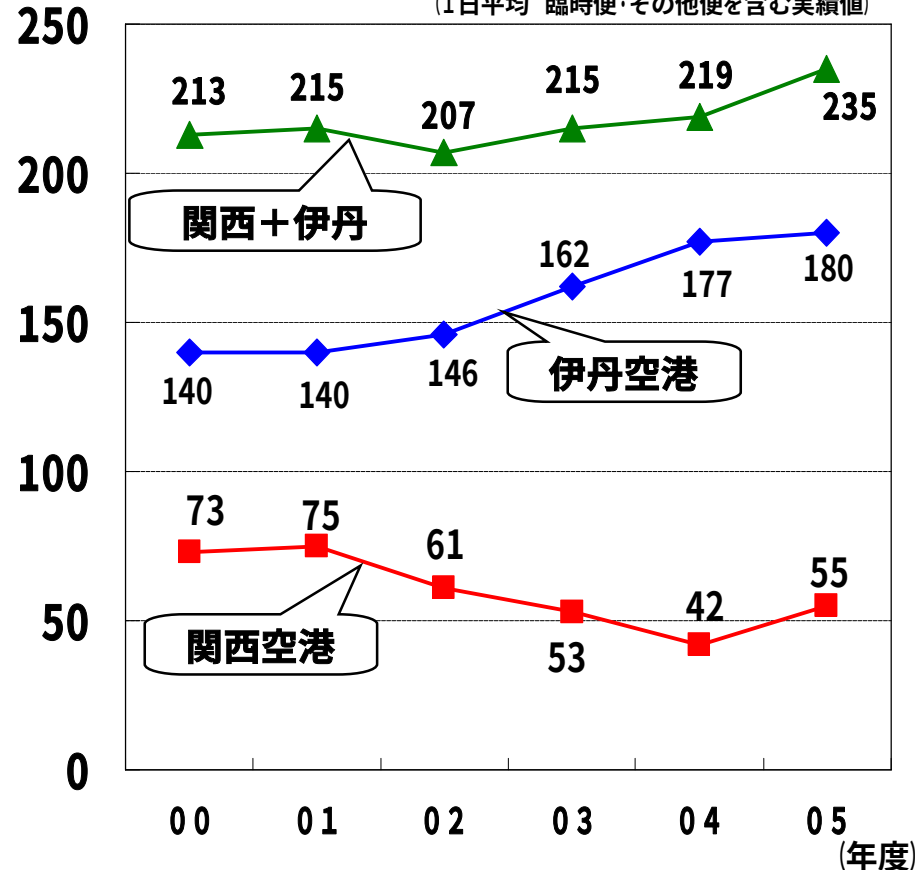
一方で、中国路線の拡大ができないこと、依然として原油高が続いていることもあり、引き続き楽観視できない状態が続く。

(時期)

3. 関西国際空港の最近の動き

～国内線の動き～

(便/日) 関西空港と伊丹空港便数 推移
(1日平均 臨時便・その他便を含む実績値)



[参考:旅客数(一日平均、単位:千人)]

	00年度	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度
合計	65	68	67	66	65	65
伊丹	44	47	49	52	53	51
関西	21	21	18	14	11	14

○ 2005年度の概況

(伊丹空港の運用見直しをうけて)

伊丹空港の運用見直し(2005年度～2007年度の三ヵ年間)を契機とした営業努力の結果、2005年春からJALの札幌、旭川、女満別、函館、福島線、ANAの札幌、宮崎、鹿児島、沖縄線の合計10便が伊丹空港から関西空港に移った。

(スカイマークエアラインズの就航と運休)

2005年3月から新規就航した羽田線(1日4便)は、残念ながら2006年3月末で運休。

(神戸空港の影響)

2月に開港した神戸空港の影響については、そもそも関空と神戸空港で競合する路線が4路線(東京、札幌、沖縄、鹿児島)しかなく、空港全体としての影響はあまり見受けられないが、引き続き注視していく必要あり。

○ 2006年度の見通し

伊丹空港の運用見直し2年目を受け、JALの花巻線、ANAの新千歳、沖縄線の各1便、計3便が移行。

新たに、JALの札幌線、ANAの羽田線の各1便、計2便が増便。

国内線の貨物便も、関空では2006年2月から就航開始。

4. ゴールデンウィークの利用実績について(4/28～5/10、10日間)

◆国内線旅客数

	旅客数 (前年比)	座席利用率 [前年利用率]
関西空港	159,955人 (109.8%)	70.3% [69.9%]
伊丹空港	426,791人 (90.8%)	64.3% [64.7%]
神戸空港	80,623人 (—)	70.6% [—]
合計	667,369人 (108.4%)	66.4% [65.1%]

◆国際線旅客数

	出入国旅客数 (前年比)	出国旅客数 (前年比)	入国旅客数 (前年比)
関西空港	311,000人 (107.2%)	156,000人 (114.0%)	155,000人 (101.2%)
成田空港	733,900人 (103.2%)	367,600人 (109.1%)	366,300人 (97.9%)
中部空港	136,250人 (104.4%)	67,670人 (111.2%)	68,580人 (97.7%)

・関空の免税店の売上は5／3に1日の売上として過去最高の1.1億円を達成した。

・関空の06年4月期の外国人旅客数は、単月実績で過去最高の30万人となった。

5. お客様のニーズにあったサービスの充実

① 昨年7月、関空展望ホール“SkyView”スケールアップオープン～

—昨年7月に行った大幅リニューアルと比べても、30%増の60万人以上※がご利用に！

(※7月9日～5月9日までの前年同期比)



個を満たすゾーン

航空関連グッズなどを販売する宇宙基地空間

4F ショッピングゾーン NEW
「Sky Shop Town」

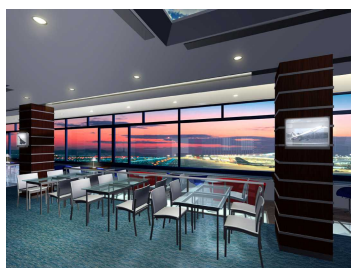
5F 野外展望スペース
平成16年7月リニューアル

4F 野外展望スペース
カフェ&レストスペース
平成16年7月リニューアル



選べる多彩な機内食

レストラン「レジェンド オブ コンコルド」



2F 環境センター (移転)

知を満たすゾーン

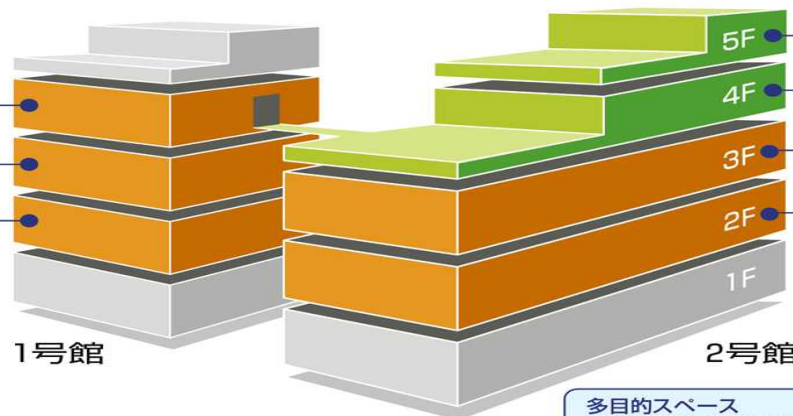
航空と環境を楽しく学べ、映像も楽しめる空間

3F アミューズメントスペース NEW
「スカイミュージアム」

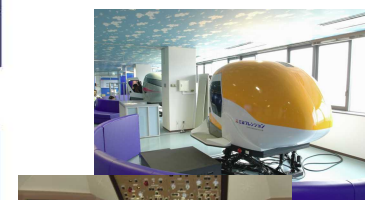
食を満たすゾーン

航空をテーマにしたおしゃれな食空間

3F レストランゾーン NEW
「航空テーマレストラン」



多目的スペース
地元小学生、修学旅行生などの
セミナールーム



様々なシミュレータ



新キャラクター

「スカイキッズブービー」

② 免税店「ブランドブティック店舗」の充実～

昨年3月までに、ご好評頂いているブティック形式の店舗大型化と増床を実施。(7ブランド10店舗)

ブティック店舗は、
240㎡→630㎡(2.6倍規模)と日本最大級
規模に拡充！

また、内外有名10ブランドを取りそろえた
ウォッチブティックも新規オープン。



《 最近の動き 》

- ・ ブランドブティック店舗の充実効果を受け、同店舗(10店舗)では売上が対前年度比138%、免税店全体でも対前年度比107%と大幅に増加。(05年度実績)
- ・ 免税品のインターネット予約サービス(04年12月開始)も、順調に推移。
- ・ ターミナルビル南ウイング先端(昨年12月)及び北ウイング中間(本年4月)の免税店をリニューアルオープン。

③ 様々なサービスの拡充

- ・出国検査後の買い物に対応できるよう、書店(7/14～)や日本のおみやげショップ(7/29～)、アイスクリームショップ(本年3/24～)を設置。
- ・空港内でのレンタカー受け渡しが可能に。(9/28～)
- ・コンビニエンスストアの配置換え(地階→2階)。(12/21～)
- ・関空オリジナルスイーツ「Kan空」の発売開始。(12/23～)
- ・旅客ターミナルビル商業施設のリニューアル(新たな飲食店街の展開)
- ・「KANKU CLUB カード」を発行。(本年4/1～)
- ・オールシーズンの衣料品を揃えたユニクロを設置。(本年4/27～)



〔各種企画旅行商品〕

④ アクセスの改善

- ・連絡橋の値下げ。〔例：普通車1730円→1500円(平日)・1000円(土・日・祝)〕
- ・促進協協賛のもと、夏休みイベント時の連絡橋通行料の1コイン(500円)化。
- ・JR西日本や南海と企画切符のタイアップ。
- ・南海ダイヤ改正による関空線運行本数の増加。(11/27～)
- ・姫路へのリムジンバス就航。(7/15～)
- ・リムジンバス奈良・大和八木線を桜井まで延伸。(10/1～)



〔新設された書店〕

⑤ 旅行商品の企画・開発

- ・JTBとのタイアップによる旅行商品「関空10点満点」「関空100点満点」を企画・販売。
- ・JATA(日本旅行業協会)の協力による、ツアーコンペの開催。
- ・VJCとの連携のもと、関西空港周辺のトランジットツアーを実施。国際線乗り継ぎ客への温泉体験(犬鳴山温泉)、ショッピングツアーを設定。



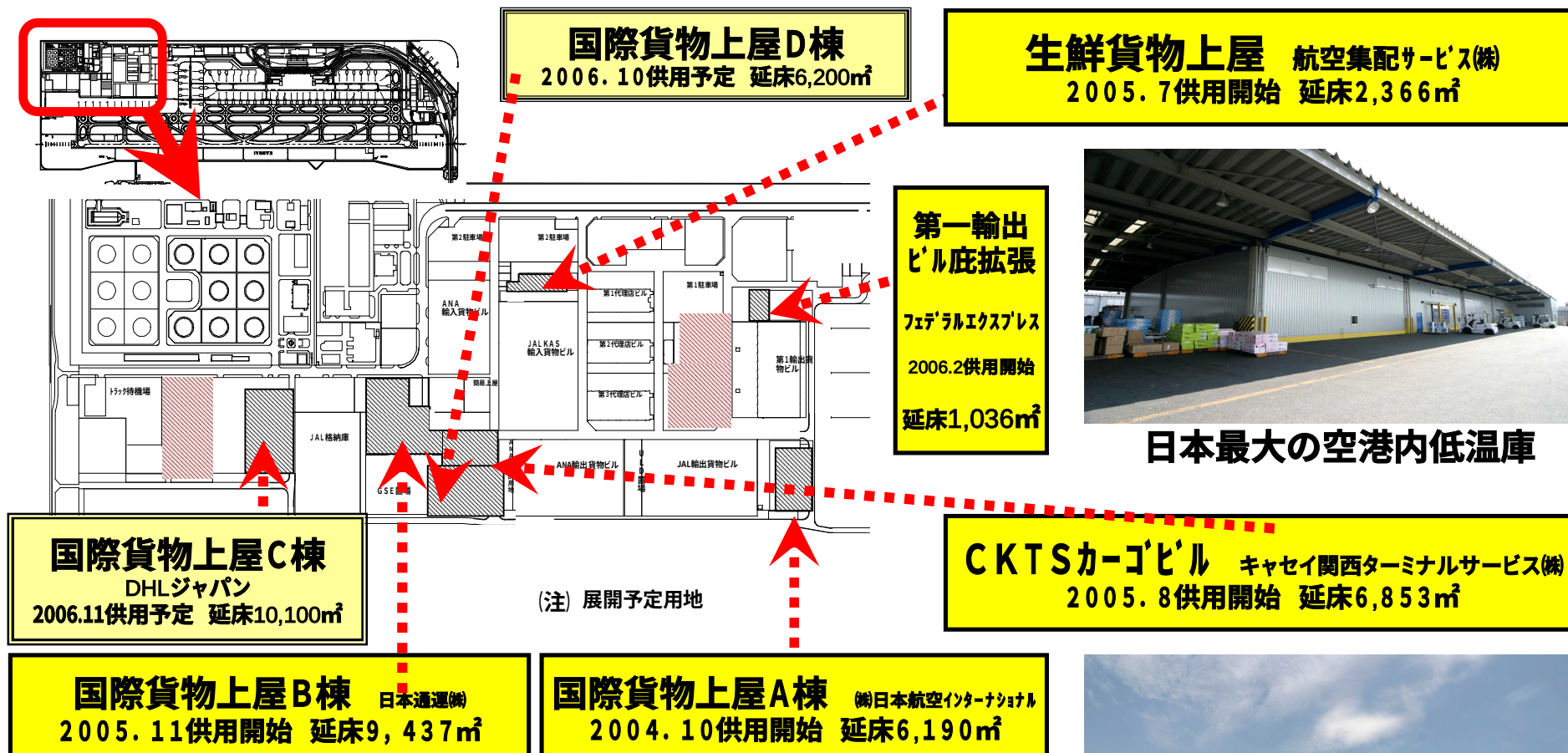
〔トランジットツアー〕

⑥ 関係者と一体となった利用促進イベントの開催

- ・関空利用航空旅客「2億人ありがとうキャンペーン」の実施。
- ・旅行会社、各国政府観光局、航空会社、地元促進協と一体となった「関空旅博」の開催。(本年3/25、26)



⑦ 貨物の動き ～ 国際線貨物取扱施設の大増強 ～



日本最大の空港内フォワーダー輸出入上屋



6. 地元と一体となった利用促進や需要喚起への取り組み

■「関西国際空港利用促進本部」(2005年3月設置)による地元が一丸となった利用促進運動の実施

- ・地元経済界、地元自治体、国土交通省をはじめ、観光業界や航空会社、鉄道会社など多岐にわたる分野の団体、会社のご協力により、本部(本部長:秋山関経連会長)を設置。
- ・従来から取り組んでいる利用促進策のフォローアップとともに、重点項目として、**関空アクセスの改善**や**国際物流戦略への対応**、**際内乗り継ぎ機能向上**などに取り組む。

■促進協(関西国際空港全体構想促進協議会)による「集客・利用促進事業」(総額5億円)と連携した様々な施策の展開

■経済界協力による「関空利用促進宣言」

- ・海外出張や航空貨物輸送等に際して、関空利用を促進していくことを採択(現在、623社がご賛同)。
- ・各企業内において、関空利用について周知徹底するため、社内通知や通達等を実施して頂く。

■地元経済界、自治体の協力のもと、国内外へのエアポートプロモーション実施

7. 経営改善計画の総括と新中期経営計画

経営改善計画(2003年～2005年度) 総括

- ◆ 経常黒字化の達成
- ◆ 経費削減目標30億円の達成 ⇒2005年度末49億円実施
- ◆ 人員削減目標50名の達成 ⇒2005年度末55名削減
- ◆ 一方で、SARS、反日デモ、テロ、原油高(サーチャージ等の実施)等の予期せざる外部要因によるマイナス影響 ⇒航空需要、売上の下ぶれ

外部環境

- ✓ 原油高止まり ⇒ 航空会社へ引き続き影響
- ✓ 日中航空交渉の停滞
- ✓ 景気の底入れ感
- ✓ 外国人インバウンドの増加
- ✓ 中部空港・神戸空港の開港

経営基盤の
更なる安定化

内部環境

- ✓ 2007年2期限定供用開始
⇒
 - ・完全24時間化
 - ・ピーク時間帯の発着枠の拡大
 - ・フルパッセンジャー、フルカーゴの対応が可能

関空新中期計画(2006～2008年度)

< 基本テーマ >

2007年2期限定供用の実現に万全を期し、1期を含めた経営資源を最大活用しつつ空港価値の最大化を図る